

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	情報倫理
科目基礎情報					
科目番号	31212		科目区分	専門 / 必履修, 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	情報books plus! インターネット社会を生きるための情報倫理 新課程版, 実教出版 ISBN : 978-4-407-33031-1				
担当教員	早坂 太一				
到達目標					
(ア)高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを理解できる。 (イ)情報伝達システムの考え方, および情報の意味と情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を理解し, 活用できる。 (ウ)情報技術の進展が社会に及ぼす影響, および個人情報保護法や著作権法などの法律との関連について理解できる。 (エ)インターネットの仕組みを理解し, 実践的に使用できる。 (オ)メールツールとウェブブラウザを使って, メールを送受信とウェブブラウジングを行うことができる。 (カ)情報セキュリティの必要性や, コンピュータを扱っている際に遭遇しうる様々な脅威の実態とその対策について理解できる。 (キ)インターネットを用いた犯罪例などを知り, それに対する正しい対処法を実践できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
利用者モラル・法律・技術による問題の解決	情報技術の進展が社会に及ぼす影響と、利用者モラル・法律・技術との関連を理解し、実践できる。		情報技術の進展が社会に及ぼす影響と、利用者モラル・法律・技術との関連を理解している。		情報技術の進展が社会に及ぼす影響と、利用者モラル・法律・技術との関連を理解していない。
情報ネットワーク・リテラシ	インターネットの仕組みを理解し、実践的に使用できる。		インターネットの仕組みを理解している。		インターネットの仕組みを理解していない。
プレゼンテーション	インパクトのある内容で、わかりやすく情報倫理に関するプレゼンテーションができる。		情報倫理に関するプレゼンテーションができる。		情報倫理に関するプレゼンテーションができない。
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	コンピュータおよびインターネットに対する付き合い方について、「技術」だけではなく、「法律」や「モラル」といった観点から学ぶ科目である。				
授業の進め方・方法	教員が一方向的に講義するのではなく、インターネット社会で日々生きている学生諸君自らが主体的に学ぶ姿勢を大事にすべく、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を行う。情報工学科棟 1 階の計算機工学実験室（パソコン室）にて、コンピュータを用いた演習を行うことがある。				
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	情報倫理とは（シラバスの説明）、私たちの身近にある情報社会その 1（インターネット社会の良し悪し、情報の性質）	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを理解できる。	
		2週	情報の受信者・発信者としての責任（情報の信頼性）	情報伝達システムの考え方, および情報の意味と情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を理解し, 活用できる。	
		3週	個人情報の取り扱い（個人情報の流出と保護）	情報技術の進展が社会に及ぼす影響, および個人情報保護法や著作権法などの法律との関連について理解できる。	
		4週	インターネットにおける知的財産（著作権）	情報技術の進展が社会に及ぼす影響, および個人情報保護法や著作権法などの法律との関連について理解できる。	
		5週	インターネット・コミュニケーション 1（電子メールの活用とマナー, インターネットの仕組み）	メールツールとウェブブラウザを使って, メールを送受信とウェブブラウジングを行うことができる。	
		6週	インターネット・コミュニケーション 2（WWWおよび SNS によるネット上のコミュニケーション, 受信者への配慮）	メールツールとウェブブラウザを使って, メールを送受信とウェブブラウジングを行うことができる。	
		7週	情報システムによる社会の変化（文化面, 学習面, 医療・福祉・公共サービス面, ビジネス面）	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを理解できる。	
		8週	インターネット上でのトラブルと犯罪（有害情報, 違法行為）	インターネットを用いた犯罪例などを知り, それに対する正しい対処法を実践できる。	
	4thQ	9週	情報セキュリティ技術（パスワード, 暗号化, ファイアウォール, 電子署名）	情報セキュリティの必要性や, コンピュータを扱っている際に遭遇しうる様々な脅威の実態とその対策について理解できる。	
		10週	ネット被害（コンピュータへの脅威, インターネットを用いた犯罪例）	インターネットを用いた犯罪例などを知り, それに対する正しい対処法を実践できる。	
		11週	情報倫理に関する調査, まとめ, およびプレゼンテーション	インターネットの仕組みを理解し, 実践的に使用できる。	
		12週	情報倫理に関する調査, まとめ, およびプレゼンテーション	インターネットの仕組みを理解し, 実践的に使用できる。	
		13週	情報倫理に関する調査, まとめ, およびプレゼンテーション	インターネットの仕組みを理解し, 実践的に使用できる。	
		14週	情報倫理に関する調査, まとめ, およびプレゼンテーション	インターネットの仕組みを理解し, 実践的に使用できる。	
		15週	私たちの身近にある情報社会その 2（スマートフォン利用による生活スタイルの変化, 健康面への影響）	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを理解できる。	

		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	後3,後4
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	後1,後7,後15
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	後11,後12,後13,後14
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	後9
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	後3
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	後6,後8,後10
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	後6,後8,後10
		専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	その他の学習内容	少なくとも一つのメールツールとWebブラウザを使って、メールの送受信とWebブラウジングを行うことができる。
コンピュータウィルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	3					後10
コンピュータを扱っている際に遭遇しうる脅威に対する対策例について説明できる。	3					後10
基本的な暗号化技術について説明できる。	3					後9
基本的なアクセス制御技術について説明できる。	3					後9
マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	3					後10
評価割合						
		定期試験	課題	合計		
総合評価割合			40	60	100	
基礎的能力			40	60	100	